

青年期とは

2019 年本試

問 1 青年期における自立についての説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 近代以前の多くの社会では，大人として自立するための通過儀礼が必要とされ，人は青年期を経て子どもから大人になるとされていた。
- ② 近代以前の多くの社会では，大人として自立するための通過儀礼は必要とされず，人は青年期を経ずに子どもから大人になるとされていた。
- ③ 青年期の人間が親による保護や監督のもとから離れ，精神的に自立して一個の独立した人格になろうとする過程は，心理的離乳と呼ばれている。
- ④ 青年期の人間が親による保護や監督のもとから離れて自立し，子どもと大人のどちらの世界にも帰属しない状態は，心理的離乳と呼ばれている。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 1	1	③	3

2018 年本試

問 2 青年が自己形成していく過程についての説明として**適当でないもの**を，次の

①～④のうちから一つ選べ。

2

- ① ハヴィガーストによれば，親との情緒的なつながりを深めつつ，親の価値観を内面化することが，青年期の課題(発達課題)に含まれる。
- ② ハヴィガーストによれば，職業決定や経済的独立の準備を進め，他者と洗練された人間関係を結ぶことが，青年期の課題(発達課題)に含まれる。
- ③ オルポートは，自分以外の人間や事物に対する関心を広げ，現実や自己を客観的にみることを，成熟した人格になるための条件(基準)とした。
- ④ オルポートは，自分独自の人生哲学を獲得し，ユーモアの感覚をもつことを，成熟した人格になるための条件(基準)とした。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 2	2	①	2

2018 年追試

問 6 次の文章は、自己の成長について説明したものである。文章中の ・ に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。

人格発達の理論を提唱したエリクソンによれば、乳児期に育つ が、自分自身や将来に対する肯定的な感覚をもつ基礎となり、一生を通じて安定した人格の下地となる。社会で自立するための準備期間である青年期には、部活動の長となったり、ボランティア活動に参加したりするなど、 によって自分の可能性を模索する。しかし、この時期は自分の考えや行動に自信がもてず、不安や混乱に陥りやすい。このときに、 が土台となることで、「大丈夫、何とかなる」と明るい見通しをもち、自分の力で困難を克服していくことができるのである。

- ① a 自我意識 b 脱中心化
- ② a 自我意識 b 役割実験
- ③ a 自我意識 b 通過儀礼
- ④ a 基本的信頼 b 脱中心化
- ⑤ a 基本的信頼 b 役割実験
- ⑥ a 基本的信頼 b 通過儀礼

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 6	6	⑤	3

2017 年本試

問 2 次のア～ウは、自己の確立について考察した人物の説明である。その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。 2

ア 小此木啓吾は、一人前の人間として自立することを回避して大人になろうとしない青年期の人間を、「モラトリアム人間」と呼んだ。

イ アリエスは、自立を図ろうとするあまり自己主張が強くなって大人と軋轢あつれきを起こすような青年期の人間を、「小さな大人」と呼んだ。

ウ アドラーは、子どもと大人の集団の境目に位置していて心理的に不安定になりがちな青年期の人間を、「マージナル・マン」と呼んだ。

- | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | ア | 正 | イ | 正 | ウ | 正 |
| ② | ア | 正 | イ | 正 | ウ | 誤 |
| ③ | ア | 正 | イ | 誤 | ウ | 正 |
| ④ | ア | 正 | イ | 誤 | ウ | 誤 |
| ⑤ | ア | 誤 | イ | 正 | ウ | 正 |
| ⑥ | ア | 誤 | イ | 正 | ウ | 誤 |
| ⑦ | ア | 誤 | イ | 誤 | ウ | 正 |
| ⑧ | ア | 誤 | イ | 誤 | ウ | 誤 |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 2	2	④	3

2017 年追試

問 6 アイデンティティの拡散に当てはまる事例として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

6

- ① 友人と映画に行く約束をしていたが，同じ日に，別の級友から水族館に誘われ，どちらにも行きたいと思い悩む。
- ② 大学卒業間際になっても，自分が社会のなかで何をしたらよいのか分からず，将来の展望が見いだせないでいる。
- ③ 高校生でありながら，学校生活のルールを無視するなど，社会規範から逸脱した行動を取ることに自らの価値を見いだしている。
- ④ 中学生になり，自分はもう子どもではないという意識が高まり，親や教師に素直な態度を取れないでいる。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 6	6	②	2

2016 年本試

問 2 次のア～ウは，教育をめぐる様々な考察や実践についての説明であるが，それぞれ誰のものか。その組合せとして正しいものを，下の①～⑧のうちから一つ選べ。

2

ア 未熟な存在としてこの世に生まれ落ちた人間が，青年期に至って自己や性に対する自覚を強めるようになることを第二の誕生と表現し，子どもの自然な素質や成長に応じた教育の必要性を説いた。

イ 幕末に渡米し，欧米の近代文明の根底にはキリスト教道徳があるという洞察のもと，帰国後に学校を創立した。もっぱら知識のみに偏った教育に危惧を抱き，キリスト教に基づく良心教育を重んじた。

ウ 教育勅語に対する拝礼を信仰上の理由に基づいて拒否した「不敬事件」に触発され，教育勅語の趣旨を否定する反国家主義的な宗教だとしてキリスト教を排撃し，教育と宗教をめぐる論争を引き起こした。

- | | | | | | | |
|---|---|------|---|------|---|-------|
| ① | ア | ピアジェ | イ | 新島襄 | ウ | 美濃部達吉 |
| ② | ア | ピアジェ | イ | 新島襄 | ウ | 井上哲次郎 |
| ③ | ア | ピアジェ | イ | 福沢諭吉 | ウ | 美濃部達吉 |
| ④ | ア | ピアジェ | イ | 福沢諭吉 | ウ | 井上哲次郎 |
| ⑤ | ア | ルソー | イ | 新島襄 | ウ | 美濃部達吉 |
| ⑥ | ア | ルソー | イ | 新島襄 | ウ | 井上哲次郎 |
| ⑦ | ア | ルソー | イ | 福沢諭吉 | ウ | 美濃部達吉 |
| ⑧ | ア | ルソー | イ | 福沢諭吉 | ウ | 井上哲次郎 |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 2	2	⑥	3

2016 年追試

問 7 次のア～ウは，他者との関わりについての記述である。その正誤の組合せとして正しいものを，下の①～⑧のうちから一つ選べ。

7

ア 他者と良好な友人関係を築きたいと思う一方で，他者を傷つけてしまうのを恐れるあまり，結果的に親密な関係を築けない場合がある。こうした状況は，パラサイト・シングルと呼ばれる。

イ 青年期は，親からの独立を求める気持ちが生まれるなど，家族との関係を再構築する時期でもある。ホリングワースはこうした心理過程を，心理的離乳と呼んだ。

ウ 他者との関係を積極的にもとんとする社交的な人について，ユングは，心的エネルギーの向きにより人を類型化したうえで，外部の世界に関心を持ちやすい外向型とした。

- | | | | |
|---|-----|-----|-----|
| ① | ア 正 | イ 正 | ウ 正 |
| ② | ア 正 | イ 正 | ウ 誤 |
| ③ | ア 正 | イ 誤 | ウ 正 |
| ④ | ア 正 | イ 誤 | ウ 誤 |
| ⑤ | ア 誤 | イ 正 | ウ 正 |
| ⑥ | ア 誤 | イ 正 | ウ 誤 |
| ⑦ | ア 誤 | イ 誤 | ウ 正 |
| ⑧ | ア 誤 | イ 誤 | ウ 誤 |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 7	7	⑤	3

2015 年本試

問2 「大人」と「子ども」をめぐる概念についてレヴィンが述べた内容として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 2

- ① 自らの欲求を満たすことのできない大人が、幼児期の発達段階に逆戻りしたかのような態度をとる現象を見いだし、退行と名付けた。
- ② 子どもと大人のはざまにあり、どちらの世界に対しても帰属意識をもてず不安定な状態にある青年を、マージナル・マン(境界人)と呼んだ。
- ③ 近代以前のヨーロッパでは「子ども」という概念が確立されておらず、中世では7歳頃以降の人間は「小さな大人」とみなされていた、と指摘した。
- ④ 年齢的には大人になっても心理的には子どものままでいようとする青年の有り様を、ピーターパン・シンドロームと名付けた。

問3 次のア～ウは、行動に関する様々な考え方を説明したものであるが、それぞれ誰のものか。その組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。 3

- ア 概念や思想の真理性は、それが実生活のなかの具体的な行動や実践においてどの程度「有用性」をもつかによって判断されねばならない、と述べた。
- イ 人間の行動や意識には無意識の領域が深く関与すると考え、とりわけ無意識における人類共通の性質に着目して「元型」と呼ばれる概念を提唱した。
- ウ 青年期の自己探求において、それまでに経験したことのない様々な役割を実際に行ってみることを「役割実験」と呼び、その意義について説いた。

- | | | | | | | |
|---|---|------------|---|------|---|-------|
| ① | ア | ジェームズ | イ | フロイト | ウ | エリクソン |
| ② | ア | ジェームズ | イ | フロイト | ウ | オルポート |
| ③ | ア | ジェームズ | イ | ユング | ウ | エリクソン |
| ④ | ア | ジェームズ | イ | ユング | ウ | オルポート |
| ⑤ | ア | ウィトゲンシュタイン | イ | フロイト | ウ | エリクソン |
| ⑥ | ア | ウィトゲンシュタイン | イ | フロイト | ウ | オルポート |

⑦ ア ウィトゲンシュタイン イ ユング ウ エリクソン

⑧ ア ウィトゲンシュタイン イ ユング ウ オルポート

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第1問	問2	2	②	2
第1問	問3	3	③	3

2014 年本試

問 3 働くことや職業を選択することは経済的な自立だけでなく、青年期においては自立した人格の形成にとって重要な役割を果たす。職業選択に関する次の具体例ア～ウと、それぞれの例にあてはまる人格形成に関する記述 A～C の組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 3

ア 私は、就職活動では自分の適性や長所を理解し、自己アピールができるように取り組んできた。しかし、不採用の経験が重なって、自分の価値が分からなくなり、社会から孤立しているように感じてしまう。

イ 私は、関心をもった職業について幅広く調べるだけでなく、現実にその職業と ^か関わるため、職業体験にも行ってみた。そうしたなかで、生涯にわたって打ち込める仕事をじっくり探すことが大切だと考えるようになった。

ウ 私は、仕事の内容は問わず、自分が生活していける収入と安定した身分が保証されることを優先して職に就いた。ただ、最近仕事に慣れてきて、自分の働きぶりを上司や同僚から認めてもらいたいと思うようになった。

- A オルポートが挙げた、成熟した人格の特徴
- B マズローの理論における、欲求の階層構造
- C エリクソンが述べた、自我同一性の拡散

- | | | | |
|---|-----|-----|-----|
| ① | ア－A | イ－B | ウ－C |
| ② | ア－A | イ－C | ウ－B |
| ③ | ア－B | イ－A | ウ－C |
| ④ | ア－B | イ－C | ウ－A |
| ⑤ | ア－C | イ－A | ウ－B |
| ⑥ | ア－C | イ－B | ウ－A |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 3	3	⑤	3

2014 年追試

問7 エリクソンの半生をたどった次の文章を読み、～に入れる記述をア～カから選び、その組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。

エリクソンは1902年に生まれ、父親の顔を知らずに育つ。放浪の旅と芸術活動を続けた青年期を経た後、ウィーンにたどり着き、そこでフロイトとその娘アンナからを学ぶ。児童分析家として成長すると、新天地を求めアメリカへと渡る。文化人類学者のマーガレット・ミードやベネディクトらと交流するなかで『幼児期と社会』を著し、という人生周期(ライフサイクル)の考えを示す。社会と自己の関係についてのエリクソンの考えは、友人だったリースマンの著書『孤独な群衆』にも影響を与え、現代人が他人指向型の性格に変化してきているというリースマンの問題提起へとつながった。

- ア 人間の行動を深層心理から解明し、神経症の治療に活いかす精神分析
- イ 夢や神話を通して、人類に共通の無意識を解明しようとする分析心理学
- ウ 人間にはいくつかの発達段階があり、時間をかけて自我が成長する
- エ 人間は幼児期から青年期までの各段階において発達課題を達成していく
- オ 周囲の意向や社会の評価を感じ取って、それに従い同調しようとする
- カ 自由がもたらす孤独や不安に耐え切れず、権威への服従を自ら求める

- ① a—ア b—ウ c—オ
- ② a—ア b—ウ c—カ
- ③ a—ア b—エ c—オ
- ④ a—ア b—エ c—カ
- ⑤ a—イ b—ウ c—オ
- ⑥ a—イ b—ウ c—カ
- ⑦ a—イ b—エ c—オ
- ⑧ a—イ b—エ c—カ

問 8 多くの問題にも直面するはずに関連して、個人が人生で直面する諸問題に関する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 8

- ① 幼児期に受ける虐待は、ピアジェがこの時期の発達課題としてあげた基本的信頼の獲得を困難にしかねず、自我の発達に影響を及ぼす可能性がある。
- ② アリエスは「人生には二度の危機がある」とし、一度目は誕生のとき、二度目は性をもった人間として生まれるときで、後者を第二次性徴と名づけた。
- ③ 思春期におとずれる第二反抗期は、親子間に対立関係をもたらすこともあるが、子どもが精神的に自立するプロセスの一環でもある。
- ④ 中年期以降、人は定年退職や体力の衰えなど様々な喪失を体験し、活力ある生活を維持しようとするリビング・ウィルが危機にさらされる。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 7	7	①	3
第 1 問	問 8	8	③	2

2013 年本試

問 3 乳児から高齢者に至る発達過程を理論化したエリクソンの考えとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 3

- ① 人間が自己を確立していく過程は人生において 8 段階あり、各段階には達成すべき心理的・社会的課題が設定されていると考えた。
- ② ライフサイクルのなかで、青年期の発達課題は他者に対する基本的信頼を獲得することであり、それが自己肯定感の基盤になると考えた。
- ③ アイデンティティ確立後も、人は多くのことを学び、成長していくが、人にはそれを可能にしている一次的欲求があると考えた。
- ④ 成熟した人格の確立には、他者からの視点を意識しつつ、物事を客観的に捉^{とら}える脱中心化が不可欠であると考えた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 3	3	①	2

2013 年追試

問 2 下線部 **b** に関連して，大人への移行期の発達段階を説明した次の **ア**～**ウ** の記述について，その正誤の組合せとして正しいものを，下の①～⑧のうちから一つ選べ。

2

ア 近代化・産業化の進展とともに，大人としての自立を準備する段階としての青年期が出現したが，その期間は縮小する傾向がある。

イ 心身発達上の大きな変化が生じる 10 歳ころから青年期になるまでの時期を，プレ青年期として発達上の一つの段階と位置づけることがある。

ウ 現代では，身体発達の早期化で，全体的に青年期の終わりが早まる一方，生活様式が画一化し発達の個人差が小さくなる傾向がある。

- | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | ア | 正 | イ | 正 | ウ | 正 |
| ② | ア | 正 | イ | 正 | ウ | 誤 |
| ③ | ア | 正 | イ | 誤 | ウ | 正 |
| ④ | ア | 正 | イ | 誤 | ウ | 誤 |
| ⑤ | ア | 誤 | イ | 正 | ウ | 正 |
| ⑥ | ア | 誤 | イ | 正 | ウ | 誤 |
| ⑦ | ア | 誤 | イ | 誤 | ウ | 正 |
| ⑧ | ア | 誤 | イ | 誤 | ウ | 誤 |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 2	2	⑥	3

2012 年本試

問 2 自我同一性の拡散を表す語句として適当でないものを，次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 通過儀礼(イニシエーション)
- ② 自意識の過剰
- ③ 否定的アイデンティティ
- ④ モラトリアム人間
- ⑤ ピーターパン・シンドローム

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 2	2	①	2

2012 年追試

問 1 周囲の他者との関係が変化する青年期に関連した特徴の一つに心理的離乳がある。その説明として正しいものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

1

- ① 青年期の急激な身体の成長を契機に，女性や男性としての成熟した自己像を形成し始めること
- ② 青年が子どもとして扱われながらも，大人として責任を課される立場になっていくこと
- ③ 経済的な自立は困難であるものの，家族との ^{かか}わり方を見直し，自分の意志で行動し始めること
- ④ 自己中心的な思考から脱却し，他者の立場から冷静に物事をみられるようになること

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 1	1	③	2

2011 年本試

問 2 自己理解の手がかりとなる A～D の用語と、具体例 ア～エ との組合せとして正しいものを、次ページの①～⑧のうちから一つ選べ。 2

- A 自己実現
- B 自我意識
- C 自己愛
- D 自我同一性

ア 私は子どものころ、自分は家業に全く向いていないと思っていたけれど、仕方なしに手伝い始めた家業にいつの間にか打ち込むようになっていた。最近ではそれが自分に向いているのではないかと感じ始めている。

イ 私と接した人はみんな私を好きになるようだ。しかし、私が友人たちのように簡単に恋人を作ったりしないのは、私に釣り合うような相手が身近にいるとは思えず、自分を大切にしたいからだ。

ウ 私は内気で気の利かない人間だと思っているが、友人からは思慮深くて信頼できる人だと言われた。友人の意見をきっかけに、私という人間について改めて考えるようになった。

エ 私は、大学病院の看護師として勤務しているが、将来は医療の恩恵を受けにくい離島や発展途上国で働きたいと考えている。そのために、現地で求められる看護技術や知識について、もっと ^{けんきん}研鑽を積んでゆきたい。

- ① アーA イーD ウーB エーC
- ② アーD イーC ウーA エーB
- ③ アーB イーA ウーC エーD
- ④ アーD イーC ウーB エーA
- ⑤ アーC イーB ウーD エーA
- ⑥ アーA イーD ウーC エーB
- ⑦ アーC イーA ウーB エーD
- ⑧ アーB イーC ウーD エーA

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 2	2	④	3

2010 年追試

問 1 下記の文章の趣旨に照らして、居場所がないと感じる心理を説明する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 1

あなたは「自分の居場所がない」と感じたことはないだろうか。そのようなとき、自分自身に価値を感じられなかったり、自分を認めてもらえないと思い悩んだりしたことはないだろうか。

グループのなかで会話がかわされていたり、何らかの役割が与えられたりしているだけでは居場所があることにはならない。居場所をめぐる感覚は、このような会話や役割の問題ではなく、青年期の発達課題でもある家族や仲間のなかでの自己に対する安定した見方の確立と深く ^{かか}関わっている。

「自分の居場所がある」とは、心地よく自分が居られるという感覚、ありのままの自分が他者に受け入れられているという感覚をもてることである。その感覚を獲得する方法の一つとして、他者との関係性をもう一度 ^{とら}捉え直し、その関係性のなかで自分の価値を高める努力をすることを通じて、自己を再評価することが挙げられる。そうすることにより、自分の居場所を感じとることができ、マズローの言う「高次の欲求」を満たすことも可能になるのではないだろうか。

- ① 青年期に自分の居場所がないと感じるのは、本心を隠して他者と接する仮面をかぶった人間関係を反映したものである。
- ② 青年期に自分の居場所がないと感じるのは、自他の評価を通してアイデンティティを獲得するという課題を反映したものである。
- ③ 青年期に自分の居場所がないと感じるのは、自分自身が意識していない集合的無意識を反映したものである。
- ④ 青年期に自分の居場所がないと感じるのは、他者からの評価に振り回されてしまう他人指向型を反映したものである。

問 2 青年期の発達課題として **適当でないもの**を、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 両親や他の大人からの精神的自立
- ② 自分自身の人生目標の設定
- ③ 職業の選択と職業生活への準備
- ④ 行動の基盤となる価値観の形成
- ⑤ 他者への基本的信頼感の獲得

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第1問	問1	1	②	3
第1問	問2	2	⑤	2

2009 年本試

問 2 自我同一性を見失っている心理状態の例として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 定年で、仕事を辞め、空虚さを感じていた時もありました。今、これまでの人生を振り返って自分史を書き始めています。思いのほか、たくさんの人にお世話になってきた自分を改めて感じています。
- ② 結婚を前提に特定の人と付き合っている友だちがおり、すごく生活が充実しているようにみえます。結婚を焦る気持ちも正直ありますが、今、仕事が充実しており、しばらく仕事をがんばろうかなと思っています。
- ③ 小学生の子どもがいます。学校に行ったり行かなかったりで、友だちとトラブルがあったのではないかと心配です。自分の会社での仕事も忙しく、大きな仕事の責任者となっています。いろいろと考えることが多いです。
- ④ 子どもも大学に入り、家を出ていきました。心の中にぽっかりと穴が空いた感じが続いています。自分の人生っていったい何だったのだろうか、自分の存在意義って何なのだろうか、いろいろと思いを悩んでいます。

問 3 エリクソンは、人生を八つの発達段階に分けて、それぞれの特徴について記述している。そのうち次の青年期以降の四つの発達段階ア～エとその特徴 A～Dとの組合せとして最も適当なものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。

- ア 青年期
- イ プレ成人期（成人前期）
- ウ 成人期（成人中期）
- エ 老年期（成人後期）

- A これまで培ってきた自分自身に対する認識を基盤として、特定の人との友情、愛、性的親密さを得ることが求められる。
- B 自分は何者なのか、何をなすべきなのかという自己についてのゆれを克服

し、自己確立についての確信を得ることが求められる。

C いろいろなことがあったこれまでの人生のすべてを、自分のものとして、受け入れることが求められる。

D 次の世代を支えていく子どもたちを生み、育てていくことに対し、積極的に関与することが求められる。

- ① アーB イーA ウーD エーC
② アーA イーC ウーB エーD
③ アーA イーB ウーD エーC
④ アーB イーC ウーD エーA
⑤ アーA イーB ウーC エーD
⑥ アーB イーA ウーC エーD

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第1問	問2	2	④	2
第1問	問3	3	①	3

2009 年追試

問 2 次のア～カには，人がその成長のなかで経験する様々な状態があげられている。それらのうち，この時期に経験することの多いものの組合せとして最も適当なものを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

2

- ア モラトリアム
- イ 脱中心化
- ウ 孤独感
- エ 基本的信頼
- オ 心理的離乳
- カ 第一反抗期

- ① ア イ カ
- ② イ ウ エ
- ③ ウ エ オ
- ④ イ ウ カ
- ⑤ ア ウ オ
- ⑥ ア エ カ

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 2	2	⑤	2

2008 年本試

問 1 発達心理学者のジェームズ・マーシアは、自我同一性の獲得の状態を、自分の可能性を模索し、迷い、苦闘する経験(「探索」と、実際に何かに積極的に関わり取り組んでいるか(「関与」という二つの観点から説明し、ア～エの四つに分けている。それを踏まえると、次の A～D の進路・職業選択に関わる青年期の状況は、ア～エの四つの状態のどれにあてはまるか。その組合せとして最も適当なものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 1

- A 小さい頃^{ころ}から家業を継ぐことを期待され、他の選択肢を考えて悩むことなく、親の仕事の手伝いをしている。
- B 就職するか大学院に進むか悩んでいるが決めることができず、大学を卒業せずに留年することにした。
- C 将来の目標について考えたうえで法律に関わる仕事をしたいと思い、司法試験のための勉強をしている。
- D まだ将来について真剣に考えたことがなく、とりあえず目標もなくアルバイトで時間をつぶしている。

ア 同一性拡散：「探索」の経験がないか、以前経験したが今は「探索」しておらず、何にも「関与」していない状態

イ 早期完了：「探索」の経験がないが、何かに「関与」している状態

ウ モラトリアム：積極的に「探索」している最中だが、何にも「関与」していない状態

エ 同一性達成：積極的に「探索」した結果、何かに「関与」している状態

- ① A－ア B－イ C－エ D－ウ
- ② A－ア B－ウ C－イ D－エ
- ③ A－イ B－ア C－エ D－ウ
- ④ A－イ B－ウ C－エ D－ア
- ⑤ A－エ B－イ C－ウ D－ア
- ⑥ A－エ B－ウ C－イ D－ア

2006 年本試

問 1 青年期には、次の(1)～(4)に示すような青年期に特有な発達課題がある。この課題の達成に失敗した場合には、逸脱行動が出現することがある。ア～ウに示す逸脱行動は、それぞれ、主にどの課題の達成の失敗と考えられるか。その組合せとして最も適当なものを、下の①～⑤のうちから一つ選べ。 1

- (1) 同じ年ごろの男女間のコミュニケーション能力を高めること。
- (2) 職業を選択して経済的に自立するための準備をすること。
- (3) 自分の身体の変化に気づき、理解し適応すること。
- (4) 社会の一員として適切に行動するために、価値や倫理の体系を学ぶこと。

ア 学ぶ意欲を喪失して学校にも行かず、漫然と日々を送っている。

イ 好きな異性に無言電話をかけたり、あとをつけたりする。

ウ 繁華街で遊んでいるうちに、万引きすることを覚えてしまった。

- ① アー(2) イー(3) ウー(4)
- ② アー(4) イー(1) ウー(3)
- ③ アー(2) イー(1) ウー(4)
- ④ アー(4) イー(3) ウー(1)
- ⑤ アー(2) イー(1) ウー(3)

問 3 青少年に人生の指針を与えてくれる先人の書物についての記述として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。 3

- ① エリクソンは、青年期の課題として自我同一性の確立を提唱し、『幼児期と社会』では、その基礎となる乳幼児期の親子関係の重要性を指摘した。
- ② ルソーは、『エミール』で、「我々は二度生まれる」と表現し、青年を大人と子どもの中間の存在と位置づけ、青年期の若者を境界人と呼んだ。
- ③ 神谷美恵子は、『生きがいについて』で、自分の存在が ^{だれ}誰かのため、何か

のために必要だと自覚することで張り合いをもって生活できると述べた。

- ④ ガンディーは、非暴力・不服従の抵抗運動によって、インドを独立に導いたが、その実践の記録と生命尊重の思想は、『自叙伝』に示されている。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第1問	問1	1	③	3
第1問	問3	3	②	2

2006 年追試

問 1 「大人になること」の自覚は、(A)社会制度的に要請される次元、(B)個人の心身の発達に伴って変化する次元、(C)社会や他者への関心の高まりと人格的成長に伴って変化する次元においてそれぞれ深められる。次のア～カのうちに、A～Cに当てはまるものはどれか。その組合せとして、最も適当なものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 1

ア 恋愛関係 イ 就 職 ウ 選挙権
エ 心理的離乳 オ 国民年金加入 カ 第二次性徴

- ① A－ウ B－カ C－エ
- ② A－オ B－エ C－イ
- ③ A－オ B－イ C－ア
- ④ A－ウ B－オ C－ア
- ⑤ A－イ B－ア C－カ
- ⑥ A－ウ B－エ C－カ

問 3 青年期の課題の解決を回避あるいは先延ばしするような人々の状態は一般的にモラトリアムと言われるが、その心理的・行動的特徴を具体的に記述しているものとして**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。 3

- ① 壮大な理想を語るけれども、自らの現実を省みることがない。
- ② 明確な目的をもたずに大学に進学し、勉強もせずに漫然と過している。
- ③ 昔からの家業の跡継ぎを強いる親に反発し、ベンチャー企業に就職する。
- ④ フリーターをしながら、あれこれボランティア活動を試みている。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 1	1	②	3
第 1 問	問 3	3	③	2

2004 年追試

問 6 人間形成をめぐって、多くの人々が様々な考えを提出している。そのうち、レヴィン、マズロー、ユングの考えとして最も適当なものを、次の①～⑥のうちからそれぞれ一つずつ選べ。レヴィンについては に、マズローについては に、ユングについては に答えよ。

- ① 人間形成が十全になされるには、欲求の健全な充足を目指さなければならないが、欲求には、睡眠や飲食などの単に生理的なものだけではなく、その上位に位置づけられる、愛情や集団への帰属意識などの精神的欲求もある。
- ② 人間の心には無意識の領域があり、個人的なものと集合的なものがある。集合的無意識は個人的無意識よりも深い層にあり、そこには、元型という神話的な性格を帯びた普遍的イメージが生まれながらに備わっている。
- ③ 人生には、誕生から死に至るまで8段階の周期(ライフサイクル)があり、時間とともに自我は発達していくと考えられる。それぞれの段階には達成すべき課題があるが、その達成度が人の発達状況の目安となっている。
- ④ 人は青年期において自我に目覚め、精神としての自己という内面的世界を発見する。これは、いわば第二の誕生であり、第一の誕生が存在するための誕生であるとすれば、第二の誕生は生きるための誕生である。
- ⑤ 子どもは小さな大人ではなく、子ども独自の世界がある。しかしながら、子どもの認識能力は一定の段階を経て発達し、自己中心的だった段階を脱すると、他者を意識するようになり、客観的な判断もできるようになる。
- ⑥ 人が自分の行動を選択する場合、その人の所属する集団の価値観から強い影響を受けるが、生活空間が大きく変化する青年期においては、子どもの集団にも大人の集団にも属することができず、中途半端な状態に陥る。

問 6 「アイデンティティの確立」を青年期の発達課題として捉えた精神分析学者にエリクソンがいる。エリクソンの言う「アイデンティティ」についての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 人間は自らの在り方を追求する際に、ある対象の一面、あるいはいくつかの特性、場合によってはその全体を理想として自分に当てはめ、それと似た存在になる。
- ② 人間は、日常生活での様々な局面の変化を通じて、変わらぬ連続性と一貫性を保つ「私」の中核部分をもち、同時にそれが共同体の他者に共有、承認されることを求める。
- ③ 人間は、社会生活を送る中で、自らの帰属する社会や共同体といった集団の規範に同一化することで、つねに整合的で矛盾のない行動の指針を得ることができる。
- ④ 人間は日常生活の中で、様々な役割としての社会的自己にその都度、その場限りで同一化することで、他者との関係においても安定した態度を取ることができる。

問7 実存主義における不安の例として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。 37

- ① 他人と比べることによって「私」の身体、能力、性格等が劣っているのではないかと思い悩むときに生じる気分。
- ② 特に理由もなく、自らが世界に投げ出されてたったひとり頼るものもなく存在するのを見いだすときに生じる気分。
- ③ なぜ自分が今、この場所にいり、^{ほか}でもないこの「私」であらねばならないのかという疑問を抱くときに生じる気分。
- ④ 自己の存在の内に根ざす死、苦、争い、罪といった否定的なものに対する無力さを見いだすときに生じる気分。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第2問	問6	15	⑥	2
第2問	問6	16	①	2
第2問	問6	17	②	2
第4問	問6	36	②	3
第4問	問7	37	①	3

2003 年本試

問 7 ライフサイクルについての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 35

- ① ライフサイクルとは、身体の発達の過程に従い、人生を誕生から死に至るいくつかの重要な節目ごとに段階的に分類したものである。
- ② ライフサイクルにおいて、青年期は自発性の確立という発達課題を抱えた大切な段階である。
- ③ ライフサイクルにおいて、幼児期は他者に対する信頼感の形成が最も進む基本的な段階である。
- ④ ライフサイクルとは、それぞれの発達段階における他者や社会とのかかわりを重視しながら、課題を達成し成長を続ける、人の一生である。

問 8 文章中の A に入れるのに最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 36

晩婚化と未婚率の上昇にはいくつかの理由が考えられる。まず、社会の複雑化と平均寿命の延びに伴い、ライフサイクルが大きく変化している。例えば、A。また、自分らしさの追求や自己実現に価値をおく個人主義が高まり、自分の現在のライフスタイルを変えたくない、家族扶養の責任のない気楽さや生き方の自由を失いたくないという態度が強くなっている。さらに、結婚や家族に関する価値観が多様化し、様々な生き方の中から自分に合ったものを主体的に選択できるようになったことも、青年の意識や行動に大きな影響を与えている。

- ① 青年のナルシズム傾向が顕著になってきた
- ② ユース・カルチャーの重要性が増してきた
- ③ モラトリアムとしての青年期が長くなってきた
- ④ ギャング・エイジの発現時期が低年齢化してきた

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 7	35	④	2
第 4 問	問 8	36	③	2

2003 年追試

問 8 現代の精神分析学の立場から自己の問題を捉え直した思想家にエリクソンがいる。エリクソンの思想についての記述として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

9

- ① 自己は単独に存在するのではなく，他人という鏡の中に像として映し出されることによって明確になっていく存在であると考えた。
- ② 自己の生の意味づけを通して，尊厳のある生き方を追求していくことに，人間として存在することの根源的な価値を見いだした。
- ③ 人間の心理的発達において，他人や社会との関係の中で自己中心性を脱却していく児童期を重要な段階として位置づけた。
- ④ 各人が自己の同一性を形成していく青年期を，全生涯にわたって人格的成熟を遂げていく上で重要な段階であると見なした。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 8	9	④	3

2002 年追試

問 2 社会のなかでの青年期の自己形成に関する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

30

- ① 若者たちのアイデンティティの形成には、アニメやロックミュージックなどのようなサブカルチャーが影響を与えている。
- ② 若者たちの性別に関する帰属意識は、生物学的に決定されて成立するので、社会的な形成過程は関係しない。
- ③ 若者たちのパーソナリティは、遺伝にはよらず、既成の社会規範やルールを習得する社会化の過程によって決定される。
- ④ 若者たちの自我の確立の時期は、第二次性徴の発現が低年齢化するにつれて、次第に早まる傾向が見られる。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 2	30	①	2

2000 年本試

問 3 青年期の自己発見に関する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

32

- ① 自分が何者であるのかわからないという「アイデンティティの危機」は、自我を確立すべき青年期に特有の現象であり、他の時期には見られない。
- ② 「第二次性徴」という身体的特徴が現れる時期になると、セルフ・イメージの形成がそれまで以上にセクシュアリティと密接に関係するようになる。
- ③ 実社会に参加して社会人としての義務や責任を負うことを心理的・社会的に猶予される「モラトリアム」は、人類の歴史上普遍的な現象である。
- ④ 「イニシエーション(通過儀礼)」を経て集団の成員となることは、一種のマインド・コントロールを受けることであり、自己発見とは相いれない。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 5 問	問 3	32	②	3